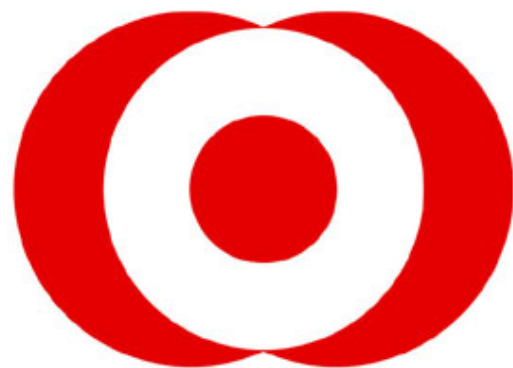

三菱UFJフィナンシャル・グループ 2005年度中間決算説明会



MUFG

2005年12月2日

本書には、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（以下「当社」という）およびそのグループ会社（以下「当グループ」という）に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が現在入手している情報に基づく、本書の作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述または前提（仮定）は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の決算短信、今後発行される有価証券報告書、ディスクロージャー誌、Annual Reportをご参照下さい。なお、本書における将来情報に関する記述は上記のとおり本書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。また、本書に記載されている当社ないし当グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

なお、本書の計数は日本会計基準ベースの数値を使用しています。

<本資料における計数の定義>

連結合算	：	三菱東京フィナンシャル・グループ(連結)とUFJホールディングス(連結)の単純合算
商業銀行合算	：	東京三菱銀行(単体)とUFJ銀行(単体)の単純合算
信託銀行合算	：	三菱信託銀行(単体)とUFJ信託銀行(単体)の単純合算
証券会社合算	：	三菱証券(単体)とUFJつばさ証券(単体)の単純合算
4行単体合算	：	「商業銀行合算」＋「信託銀行合算」

・上記社名は2005年9月30日現在

・特に断りのない限り、UFJ銀行にはUFJストラテジックパートナー、UFJエクイティインベストメンツを、UFJ信託銀行にはUFJトラストエクイティを含む

2005年度中間決算の概要

● 2005年度中間決算サマリー	4
● 貸出資産の質の改善	9
● 保有有価証券の状況	10
● 部門別業績概要	11
● リテール部門	12
● 法人部門	13
● 受託財産部門	14
● 2005年度業績予想	15
● 2008年度財務目標	16

2005年度下期の取組み

● これまでの取組み(1)～業務戦略	18
● これまでの取組み(2)～資本政策	21
● 2005年度下期の取組み	22
● 事業戦略の基本方針	23
● コアビジネスの更なる強化	25
● 統合計画の遂行	28

付属資料

● データブック	別紙
----------	----

2005年度中間決算の概要

2005年度下期の取組み

MTFG 2005年度中間決算サマリー



- 業務粗利益、業務純益、中間純利益はいずれも前年同期比増益
- 海外貸出・住宅ローンの増加を主因に貸出金は増加
- 開示債権比率は05年3月末比▲0.44ポイントの2.21%に低下

(億円)

<連結P/L>		04上期	05上期	増減
1	業務粗利益 (信託勘定償却前)	8,882	9,459	576
2	うち資金利益	5,065	4,842	▲ 222
3	うち役員取引等利益	2,413	2,681	268
4	うち特定取引利益	502	666	163
5	うちその他業務利益	417	853	436
6	営業費	4,993	5,205	211
7	実質業務純益	3,889	4,253	364
8	臨時損益	▲ 762	▲ 438	324
9	経常利益	3,103	3,811	708
10	特別損益	175	1,131	956
11	中間純利益	1,716	3,006	1,290
12	与信関係費用*1	▲ 563	599	1,163
13	与信関係費用*1(単体合算)	▲ 501	630	1,131

(▲は費用)

*1 与信関係費用=信託勘定与信関係費用(業務粗利益内)+一般貸倒引当金繰入額+与信関係費用(臨時損益内)+貸倒引当金戻入額

(億円)

<連結B/S>		05年3月末	05年9月末	増減
1	貸出金(銀行勘定+信託勘定)	470,142	474,157	4,014
	[貸出金(銀行勘定)]	[464,466]	[471,325]	[6,858]
2	うち国内法人貸出(単体合算)*2	300,378	294,560	▲ 5,817
3	うち住宅ローン(単体合算)	81,328	82,282	953
4	うち海外貸出*3	81,380	90,953	9,572
5	有価証券	288,234	304,760	16,526
6	預金	675,487	683,856	8,369
7	国内預貸金利回り差(単体合算)	(04上期) 1.26%	(05上期) 1.20%	▲0.06ポイント
8	金融再生法開示債権 (単体合算)	12,917	10,862	▲ 2,054
9	開示債権比率 (単体合算)	2.65%	2.21%	▲0.44ポイント
10	その他有価証券評価差額	9,859	15,878	6,018

*2 東京三菱銀行および三菱信託銀行からMTFGに対する貸出金を除く

*3 海外支店貸出+海外現地法人貸出 (UNBC+東京三菱銀行信託会社)

UFJH 2005年度最終決算サマリー



- 与信関係費用戻入益発生により当期純利益(05年9月期)は4,110億円を計上
- 業務粗利益・業務純益は前年同期比減少
 ～ 問題債権回収・処理による資金利益の減少、債券関係収益の減少が主因
- 開示債権比率は05年3月末比▲0.79ポイントの3.32%に低下

(億円)

<連結P/L>		04上期	05上期	増減
1	業務粗利益(信託勘定償却前)	8,040	7,514	▲ 526
2	うち資金利益	4,113	3,737	▲ 376
3	うち役務取引等利益	2,017	2,159	141
4	うち特定取引利益	91	141	50
5	うち国債等関係損益	695	407	▲ 288
6	営業費	3,505	3,632	126
7	実質業務純益	4,535	3,881	▲ 653
8	臨時損益	▲ 15,746	▲ 324	15,422
9	経常利益	▲ 4,748	3,552	8,301
10	特別損益	445	2,112	1,666
11	当期純利益	▲ 6,742	4,110	10,853
12	与信関係費用*1	▲ 6,977	2,146	9,124
13	与信関係費用*1(単体合算)	▲ 6,377	3,154	9,531

(▲は費用)

*1 与信関係費用=信託勘定与信関係費用(業務粗利益内)+一般貸倒引当金繰入額+与信関係費用(臨時損益内)+貸倒引当金戻入額

(億円)

<連結B/S>		05年3月末	05年9月末	増減
1	貸出金(銀行勘定+信託勘定)	379,888	382,867	2,978
	[貸出金(銀行勘定)]	[373,544]	[381,750]	[8,206]
2	うち国内法人貸出(単体合算)*2	235,226	236,849	1,623
3	うち住宅ローン(単体合算)	100,693	102,589	1,895
4	うち海外支店貸出	18,145	18,581	436
5	有価証券	217,707	217,770	62
6	預金	507,257	503,154	▲ 4,102
7	国内預貸金利回り差(単体合算)	(04上期) 1.62%	(05上期) 1.59%	▲0.02ポイント
8	金融再生法開示債権(単体合算)	17,162	13,994	▲ 3,168
9	開示債権比率(単体合算)	4.12%	3.32%	▲0.79ポイント
10	その他有価証券評価差額	3,989	5,293	1,303

*2 UFJ信託銀行からUFJHに対する貸出金を除く

MUFG連結合算 2005年度中間決算サマリー (P/L)



MUFG

(億円)

- **業務粗利益は前年同期比微増**
 - 手数料収益増加の一方、資金収益・国債等関係損益は減少
- **営業費は前年同期比+338億円**
 - 経费率52.1% (前年同期比+1.8ポイント)
 - 単体経费率45.7% (同+1.1ポイント)
- **顧客部門営業純益は順調に増加**
 - 顧客部門営業純益比率は84%に上昇
- **与信関係費用は約1兆円改善**
 - 下期に見込んでいた大口先の業況改善による引当金戻入の前倒し分も寄与

＜統合関連費用＞

臨時損益・特別損益として約1,600億円を上期に計上
(当初見込み額：年間3,600億円)

＜連結P/L＞

	04上期	05上期	増減
1 業務粗利益 (信託勘定償却前)	16,923	16,973	49
2 うち資金利益	9,179	8,579	▲ 599
3 うち役務取引等利益	4,431	4,840	409
4 うち国債等関係損益	974	512	▲ 461
5 うち金融派生商品損益 (4行単体合算)	▲ 422	▲ 6	415
6 営業費	8,499	8,837	338
7 実質業務純益	8,424	8,135	▲ 288
8 臨時損益	▲ 16,509	▲ 762	15,747
9 経常利益	▲ 1,645	7,363	9,009
10 特別損益	621	3,244	2,622
11 中間純利益	▲ 5,026	7,117	12,143
12 与信関係費用*1	▲ 7,541	2,745	10,287
13 与信関係費用*1 (4行単体合算)	▲ 6,878	3,784	10,663

(▲は費用)

*1 与信関係費用=信託勘定与信関係費用(業務粗利益内)+一般貸倒引当金繰入額+与信関係費用(臨時損益内)+貸倒引当金戻入額

＜ご参考＞

14 顧客部門営業純益 *2 (同比率)	6,569 (76%)	6,859 (84%)	290 (+8ポイント)
15 手数料収益 *3 (対粗利益比率)	6,506 (38.4%)	7,162 (42.2%)	656 (+3.8ポイント)

*2 リテール、法人(含むUNBC)、受託財産の対顧客3事業の営業純益

*3 役務取引等利益+信託報酬(除く貸信・合同)+対顧客デリバティブ収益(管理ベース)+外為売買益(4行単体合算)

MUFG連結合算 2005年度中間決算サマリー（連単差）



- 業務粗利益の連結単体差は約4,400億円（連単倍率約1.35倍）

（億円）

	連結合算	4行単体合算	連単差		
			うち証券会社合算	うちUNBC	
業務粗利益（信託勘定償却前）	16,973	12,560	4,412	1,120	1,487
うち資金利益①	8,579	7,121	1,458	13	1,006
うち役務取引等利益②	4,840	2,657	2,183	573	361
持分法による投資損益③	116	—	116	—	—

<その他の主な連単差要因>

（億円）

① 資金利益 *1		② 役務取引等利益 *1		③ 持分法による投資損益 *2	
泉州銀行	: 152	ディーシーカード	: 327	アコム	: 53
UFJカード	: 131	UFJカード	: 187	UFJセントラルリース	: 24
ディーシーカード	: 78	三菱投信	: 84	国際投信投資顧問	: 17
東京三菱銀行信託会社	: 48	UFJ信用保証	: 81	中京銀行	: 8
UFJビジネスファイナンス	: 24	UFJパートナーズ投信	: 60	カブドットコム証券	: 6
オランダ東京三菱銀行	: 17	三菱信不動産販売	: 49	ダイヤモンドリース	: 3
PT Bank UFJ Indonesia	: 17	ダイヤモンド信用保証	: 45	ダイヤモンドキャピタル	: 3

*1 連結調整後概算値

*2 各社当期利益の持分相当分に連結調整を加えたもの（各社決算計数とは異なる）

MUFG連結合算 2005年度中間決算サマリー (B/S)



MUFG

(億円)

- 貸出金は05/3末比+6,993億円
 - 住宅ローン、海外貸出が増加
 - 国内法人貸出は、大企業貸出と要注意以下先の減少を主因に微減
- 預金は05/3末比+4,267億円
- 開示債権は引続き減少
 - 開示債権比率は2.72%に低下
- その他有価証券の含み損益は株式中心に7,322億円増加
- 繰延税金資産対Tier1比率は約14.4%に低下
- BIS比率は合算ベースで約12.0% (Tier1比率約6.5%)

<連結B/S>

	05年3月末	05年9月末	増減
1 貸出金 (銀行勘定+信託勘定)	850,031	857,024	6,993
[貸出金 (銀行勘定)]	[838,010]	[853,076]	[15,065]
2 うち国内法人貸出(4行単体合算)*1	535,604	531,410	▲4,194
3 うち住宅ローン(4行単体合算)	182,022	184,871	2,849
4 うち海外貸出*2	99,525	109,534	10,008
5 有価証券	505,941	522,531	16,589
6 預金	1,182,744	1,187,011	4,267
7 国内預貸金利回り差(4行単体合算)	(04上期) 1.44%	(05上期) 1.38%	▲0.06ポイント
8 金融再生法開示債権 (4行単体合算)	30,080	24,857	▲5,223
9 開示債権比率 (4行単体合算)	3.33%	2.72%	▲0.60ポイント
10 その他有価証券評価差額	13,849	21,171	7,322

<ご参考>

11 保有株式対Tier1比率*3	67%	57%	▲9ポイント
12 繰延税金資産(ネット) 対Tier1比率*3	25.7%	14.4%	▲11.3ポイント
13 BIS自己資本比率 (Tier1比率)*3	11.52% (5.91%)	12.00% (6.52%)	+0.47ポイント (+0.60ポイント)

*1 傘下銀行から持株会社宛の貸出金を除く

*2 海外支店貸出+海外現地法人貸出

*3 MTFG・UFJH単純合算から、Tier1額7,000億円 (MTFGよりUFJ銀行への資本注入額)をマイナス調整

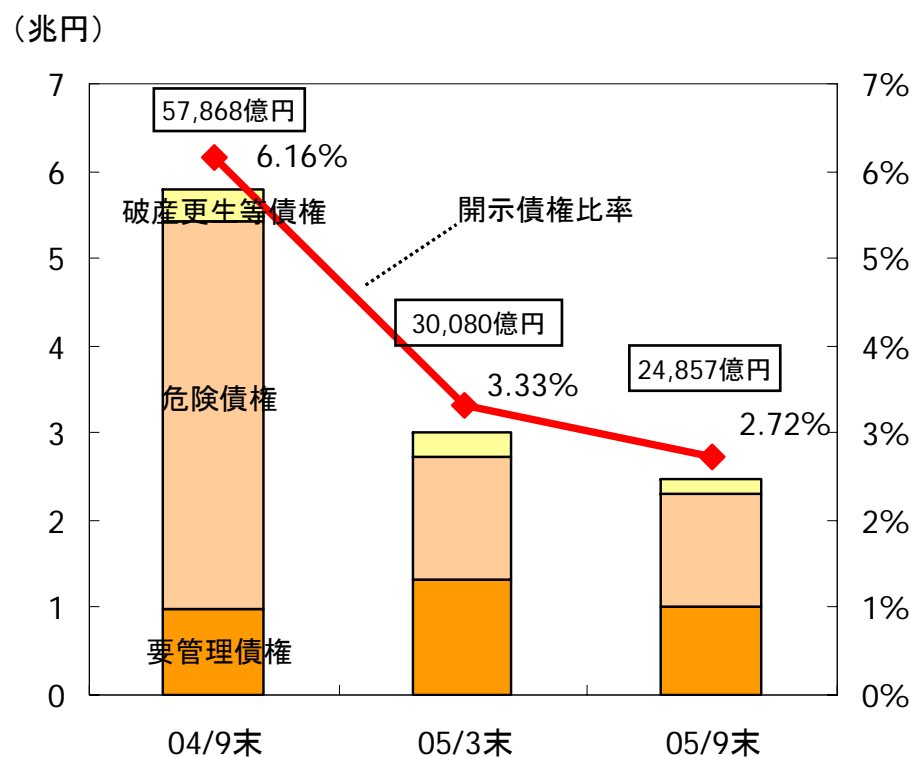
貸出資産の質の改善

【4行単体合算】

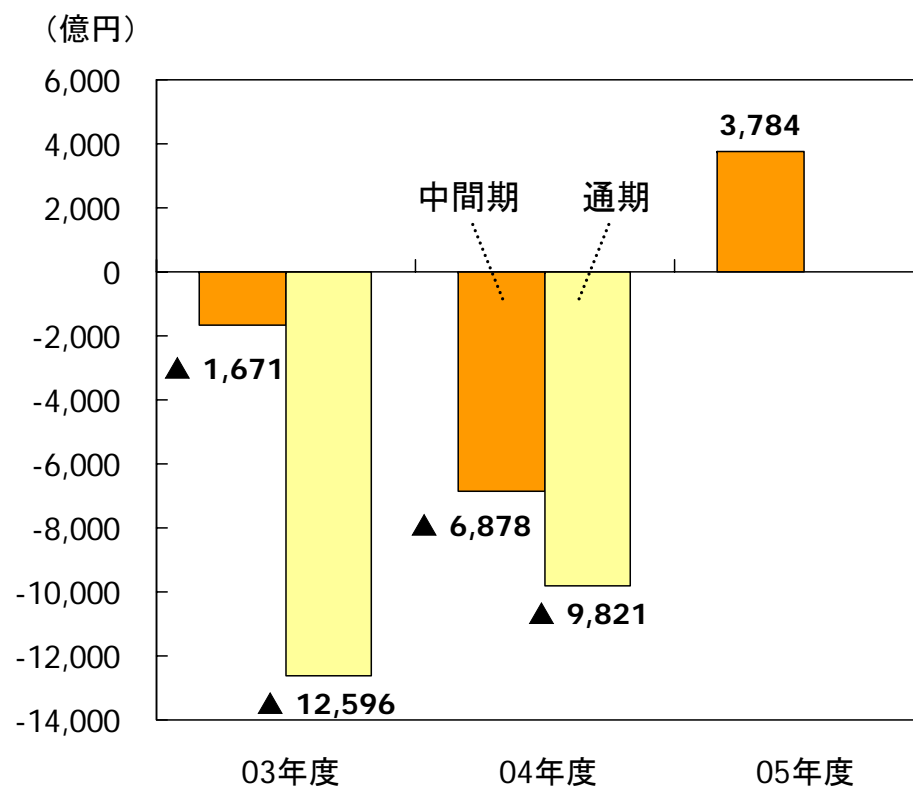


- 貸出資産の質は引続き改善、開示債権比率は2.72%に低下
- 与信関係費用は貸倒引当金戻入により、3,784億円のプラスに

金融再生法開示債権残高



与信関係費用



(▲は費用を表す)

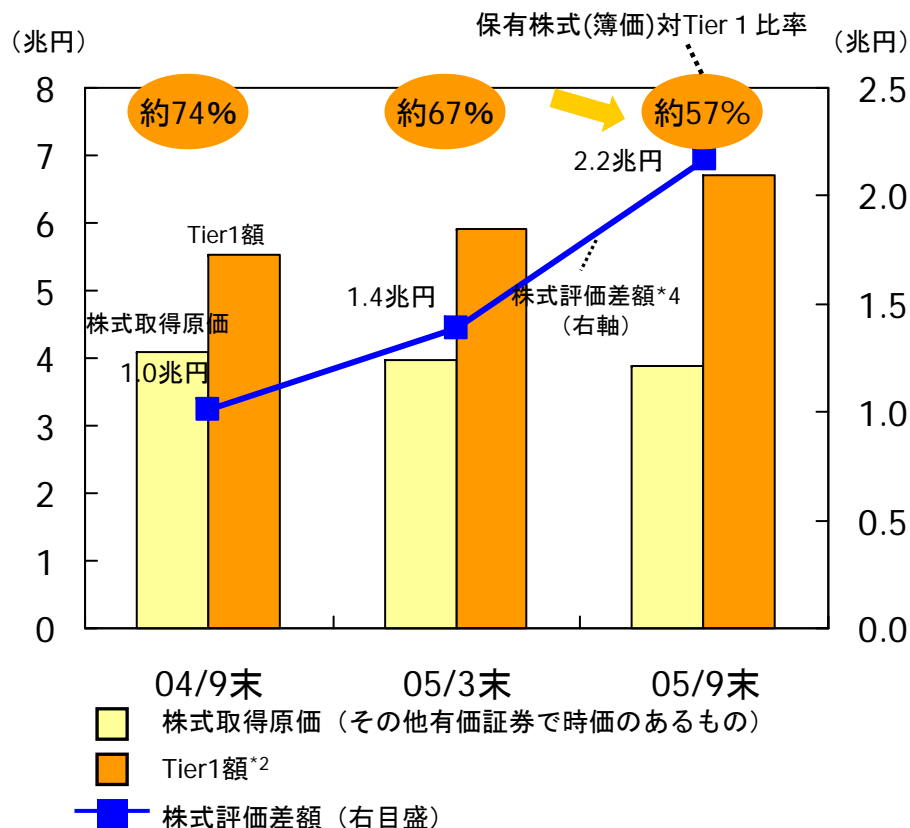
保有有価証券の状況

【連結合算】

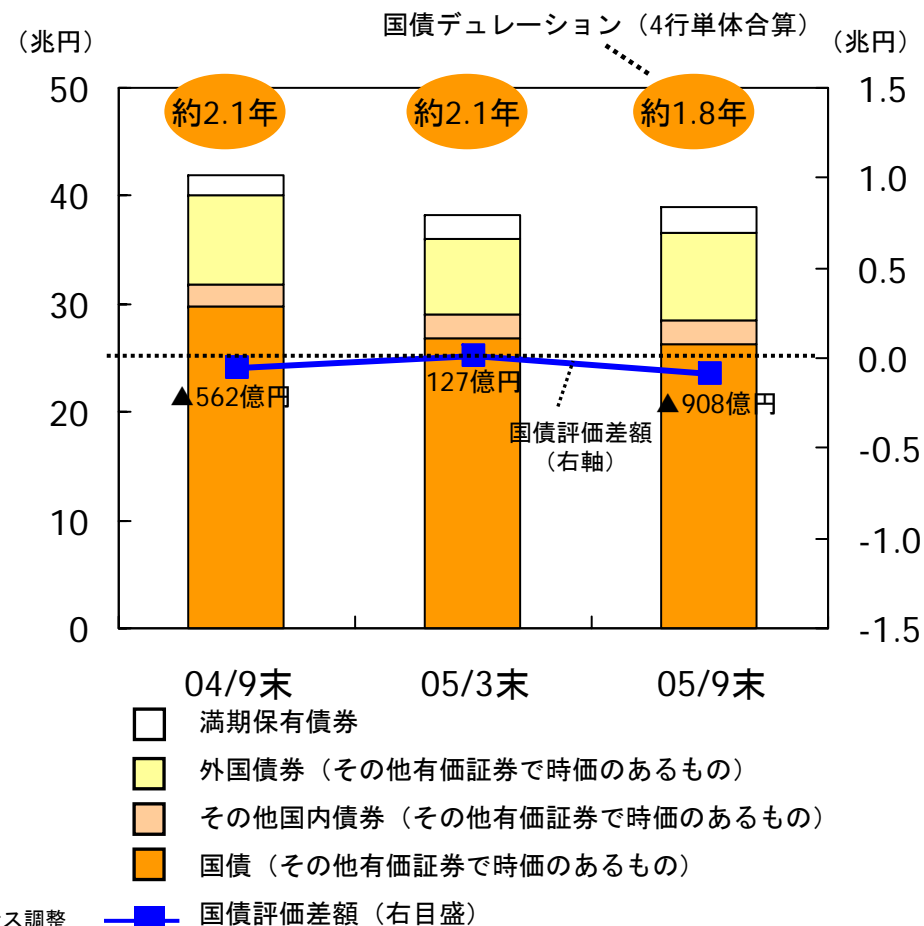


● その他有価証券の評価差額は2.1兆円（05/3末比+7,322億円）と大幅増

保有株式の状況*1



保有債券の状況*3



*1 その他有価証券で時価のあるもののうち、国内株式及び外国株式の合計

*2 Tier1額は、MTFG・UFJH単純合算から7,000億円（MTFGよりUFJ銀行への資本注入額）をマイナス調整

*3 貸借対照表計上額（満期保有債券は取得原価、その他有価証券は時価）

*4 評価差額の算出にはMTFGが期末日終値、UFJHが期末1ヶ月終値平均を使用しているが、ここでは両社計数を単純合算

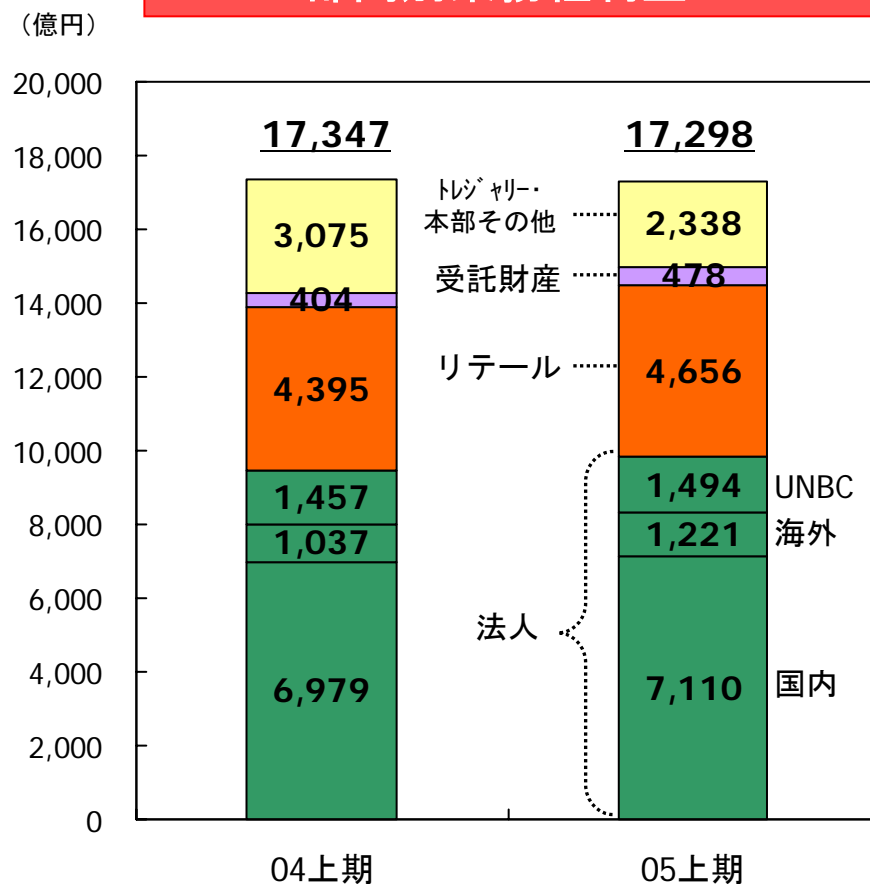
(ご参考)

株式・債券以外のその他有価証券（投資信託等）の05/9末残高は3.54兆円、評価差額は661億円

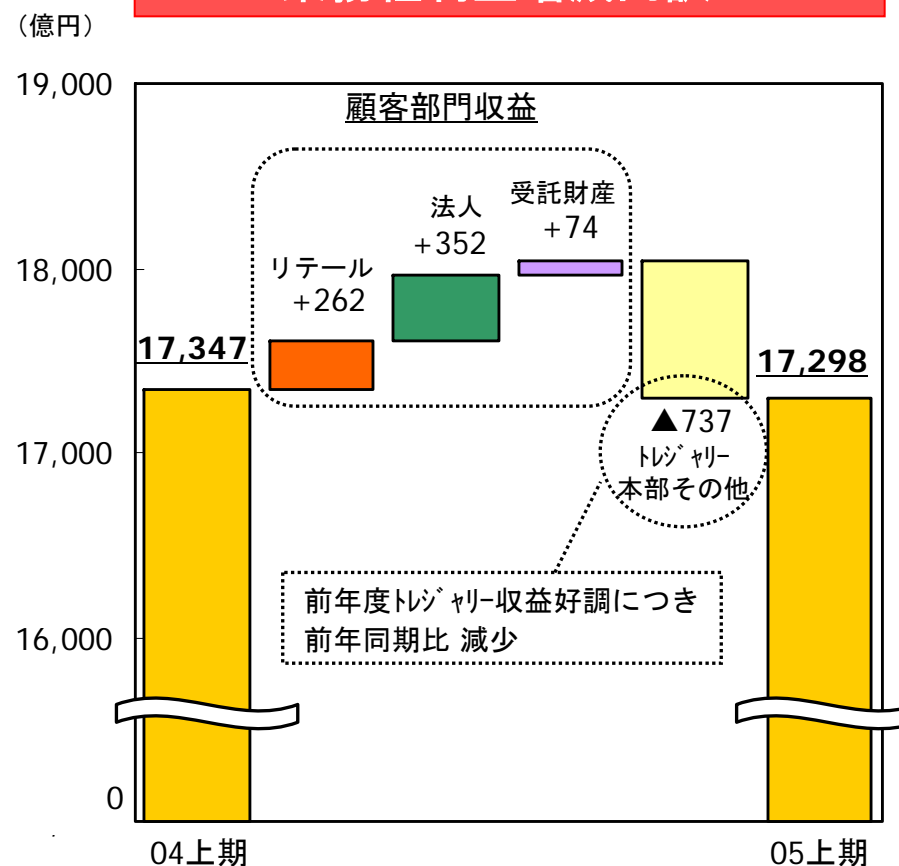
部門別業績概要 (MUFG連結ベース)

- 手数料収益増を主因にリテール・法人・受託財産の対顧客3事業はいずれも増益
- トレジャリー収益は前年同期が好調であったこともあり減少

部門別業務粗利益*1



業務粗利益増減内訳*1



*1 管理ベース (子会社からの配当金収入を除く内部取引消去前の連結粗利益)
部門別業務純益内訳はデータブックp.27をご参照ください

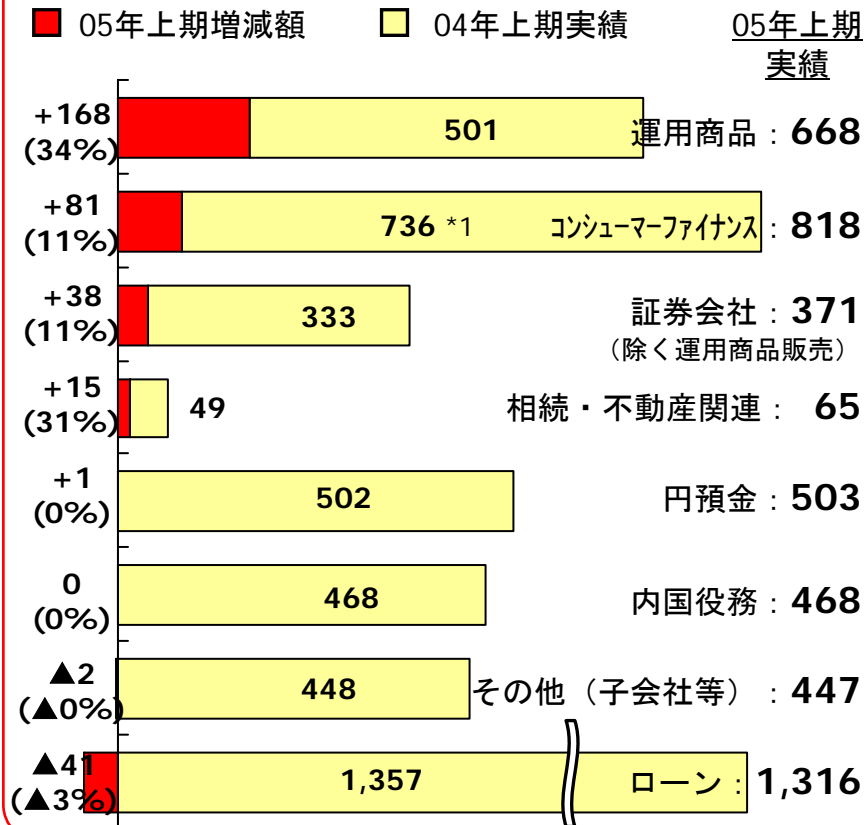
リテール部門 (MUFG連結ベース)



- 業務粗利益は前年同期比+262億円の4,656億円
～運用商品販売を中心として手数料収益が好調

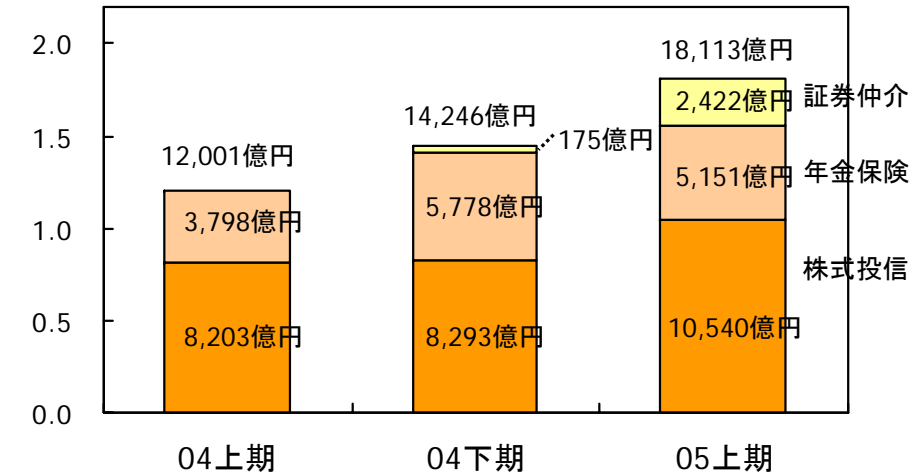
リテール連結事業本部粗利益

05上期 4,656億円 (04上期比+262億円)

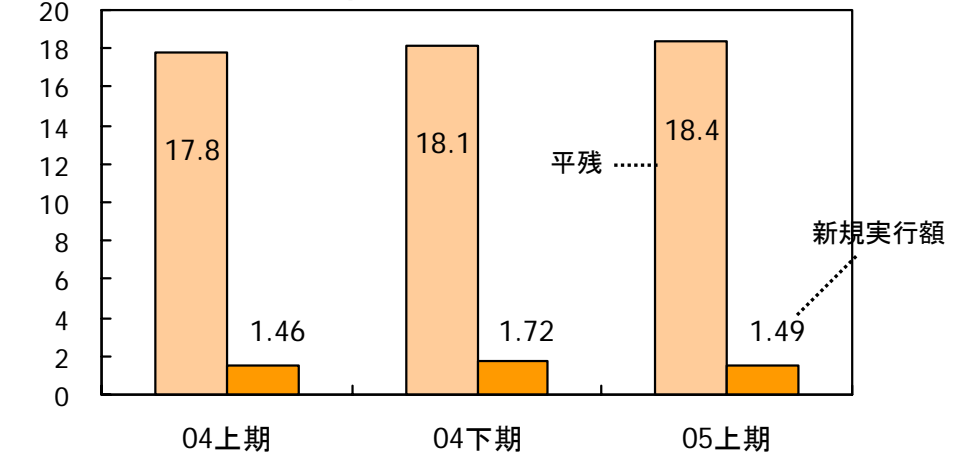


*1 旧東京三菱キャッシュワンを除く

＜運用商品販売額＞ (銀行+信託+証券)



＜住宅ローン*2＞



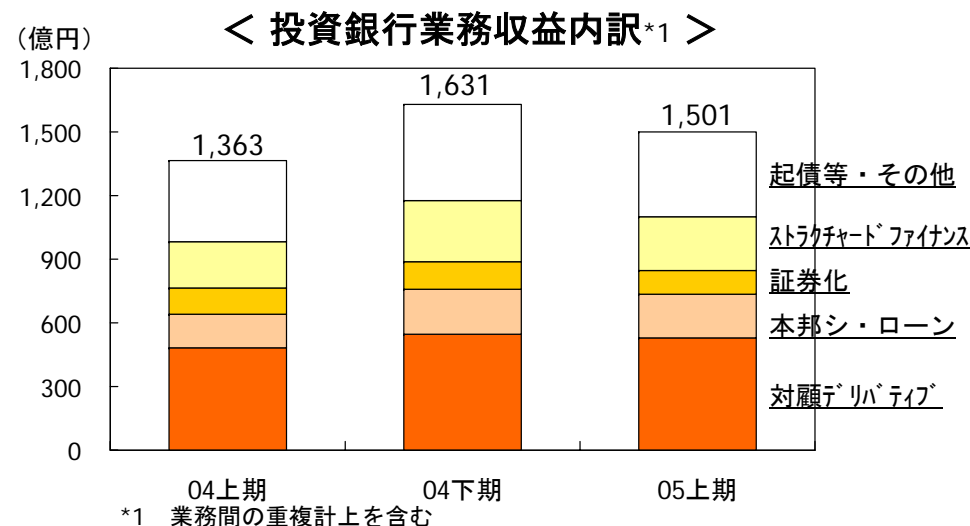
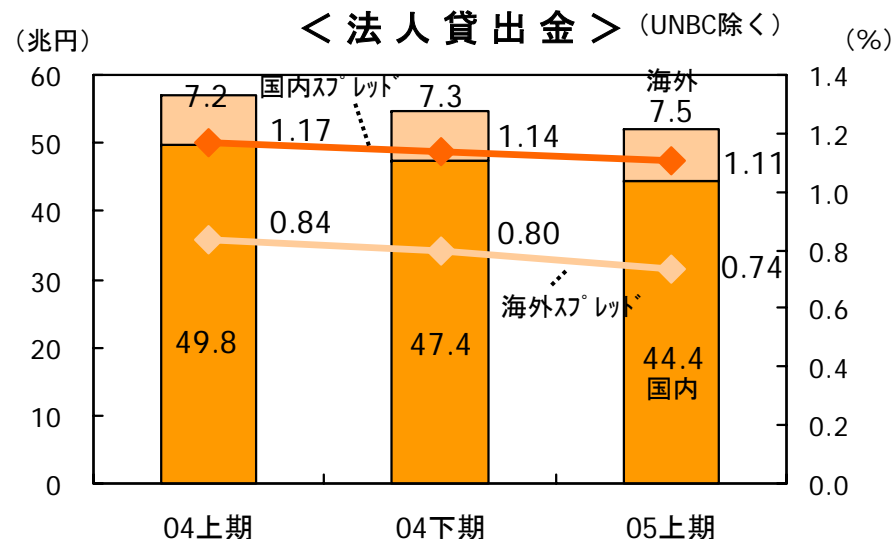
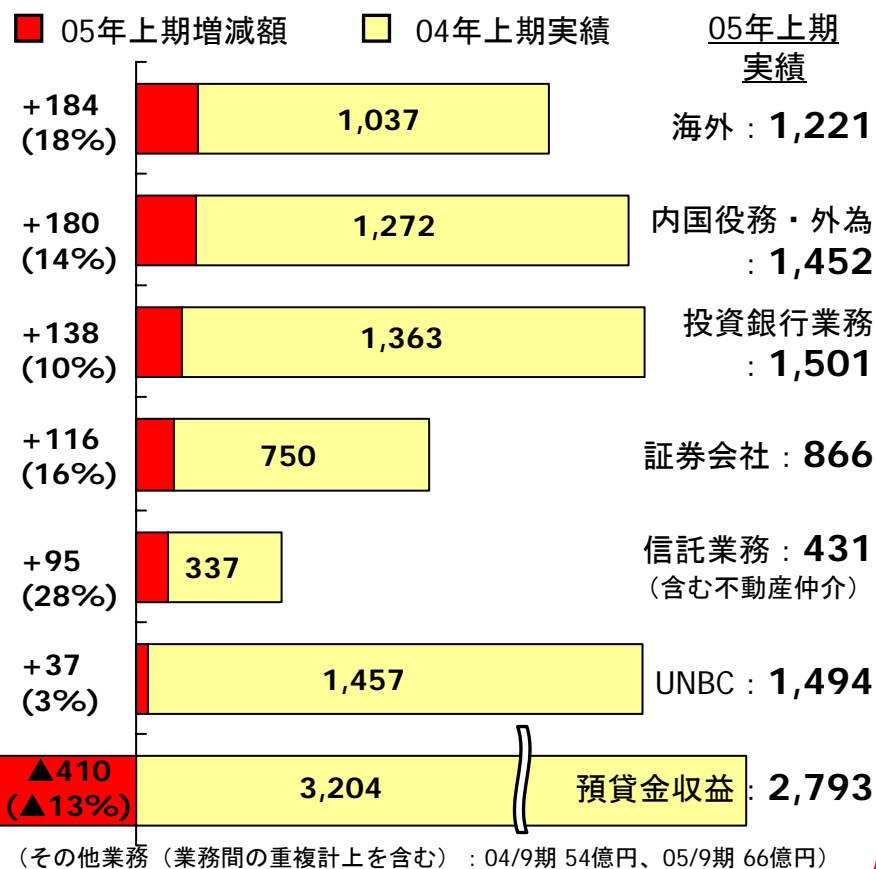
*2 貸貸用不動産建築資金を含む

法人部門（MUFG連結ベース）

- 業務粗利益は前年同期比+352億円の9,825億円
 ~預貸金収益は減少するも海外収益・手数料収益増で増益確保

法人連結事業本部粗利益

05上期 9,825億円（04上期比+352億円）



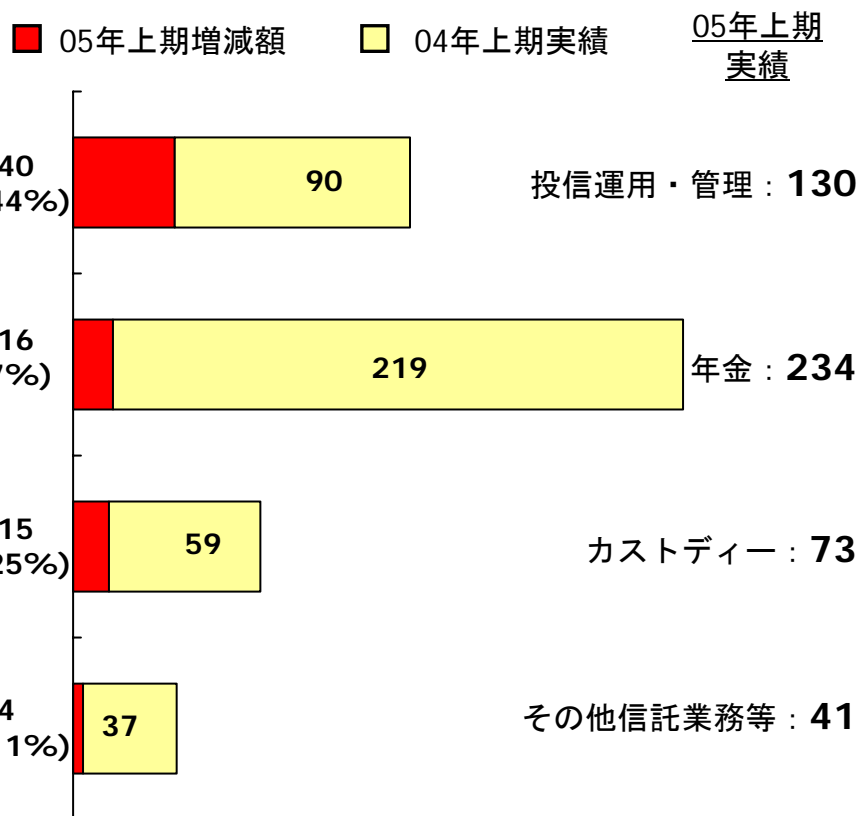
受託財産部門（MUFG連結ベース）



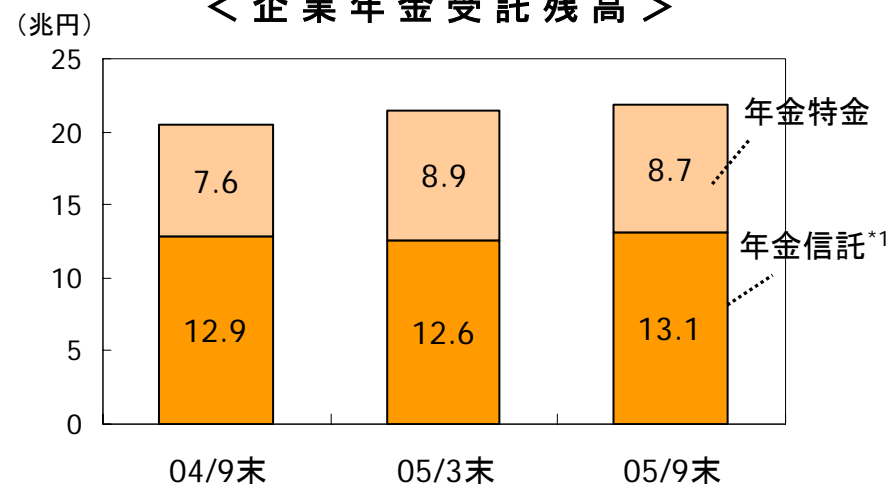
- 業務粗利益は前年同期比+74億円の478億円
～各業務ラインとも着実に収益を積み上げ

受託財産連結事業本部粗利益

05上期 478億円（04上期比+74億円）

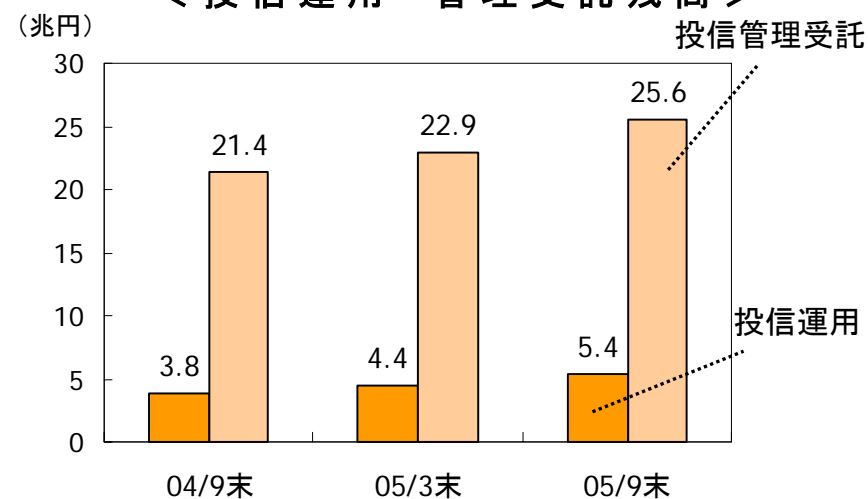


< 企業年金受託残高 >



*1 投資一任勘定を含む

< 投信運用・管理受託残高 >



2005年度業績予想

【連結合算】



(単位：億円)

経常収益	旧MTFG中間期 + MUFUG下期予想 (05年上期)	旧UFJH 11,137	40,850	<ご参考> MUFUG予想+旧UFJH上期 通期 (合算ベース) 13,450 (A) + (B)
経常利益	旧MTFG中間期 + MUFUG下期予想 (05年上期)	旧UFJH 3,552 (A)	9,900 (B)	通期 (合算ベース) 9,300 *1 (A) + (B)
当期利益	旧MTFG中間期 + MUFUG下期予想 (05年上期)	旧UFJH 4,110 (A)	5,200 (B) *1	

*1 2005年5月公表の当初業績予想 MUFUG通期予想：4,000億円、通期（合算ベース）予想：5,400億円

2008年度財務目標 (MUFG連結ベース)



2008年度連結財務目標

連結営業純益、経費率は略期初計画通り
 当期利益は貸倒引当金戻入益の上振れを
 主因に期初計画を大きく上回る見込み

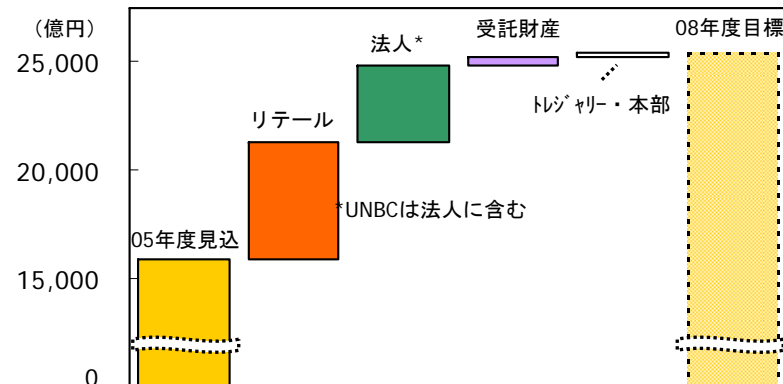
(単位: 億円)

	04年度実績*1	05年度見込*2	08年度目標
営業純益	17,400	約16,000	約25,000
経費率	50%	約55%	40%台前半
当期利益	(▲2,161)	9,300	約11,000
ROE	(▲4.8%)	—	17%程度

*1 MTFG+UFJH(単純合算) *2 UFJH05年上期実績+MUFG05年度通期業績予想

【財務目標の前提となるマクロ経済シナリオ】

	05年度	05下前提	06年度	07年度	08年度
3MTibor (期中平均)	0.13%	0.09%	0.29%	0.41%	0.46%
10年JGB (期中平均)	1.81%	1.60%	2.22%	2.29%	2.29%
ドル円 (期末値)	105円	105円	105円	105円	105円
実質GDP成長率 (年率)	1.1%	0.9%	1.9%	1.0%	1.8%



2005年度中間決算の概要

2005年度下期の取組み

これまでの取組み（1）～業務戦略

● 統合作業で滞ることなく、着実に業務戦略を展開

6月

- 定時株主総会にて合併議案承認（6/29）

7月

- MTFGが三菱証券を直接子会社化

9月

- 東京海上日動火災保険と中小企業ビジネスにおける戦略的業務提携
- 農林中央金庫とのリテール分野における戦略的業務・資本提携発表
- メリルリンチ日本証券とのプライベートバンキングサービス合併会社設立発表
- コンピューターシェア社との合併会社設立（日本シェアホルダーサービス）

10月

- MUFG誕生：持株会社、信託銀行、証券会社、投信会社等経営統合（10/1）
- UFJニコス誕生、UFJ銀行の連結子会社化
- 農林漁業金融公庫とアグリビジネス分野における戦略的業務提携

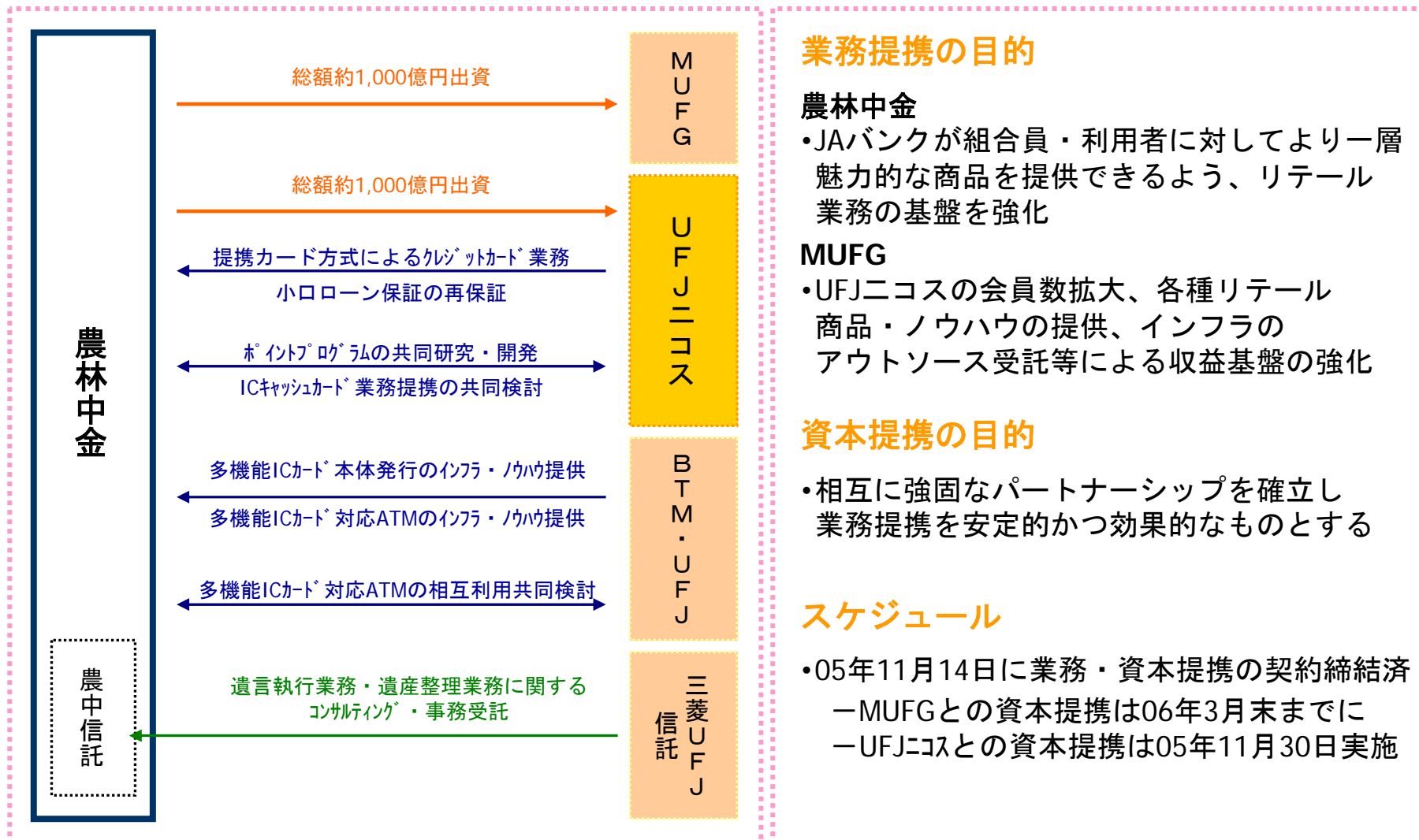
11月

- BTMとJR東日本がカード業務における業務提携合意
- 傘下商業銀行の合併正式認可（11/18）
- 三菱UFJ信託と日本郵政公社が郵便物の封入・発送分野において合併会社の設立合意

戦略的アライアンス～農林中金との戦略的業務・資本提携



- JAバンクの有する幅広い顧客基盤・拠点網とMUFGの最先端技術・商品力を最大限活用



業務提携の目的

- 農林中金**
- JAバンクが組合員・利用者に対してより一層魅力的な商品を提供できるよう、リテール業務の基盤を強化
- MUFG**
- UFJニコスの会員数拡大、各種リテール商品・ノウハウの提供、インフラのアウトソース受託等による収益基盤の強化

資本提携の目的

- 相互に強固なパートナーシップを確立し業務提携を安定的かつ効果的なものとする

スケジュール

- 05年11月14日に業務・資本提携の契約締結済
 - －MUFGとの資本提携は06年3月末までに
 - －UFJニコスとの資本提携は05年11月30日実施

戦略的アライアンス～メリルリンチとのPB合併会社設立



- 世界トップ水準のPBサービスを求める顧客に、グローバルかつ洗練されたサービスを提供



合併会社設立の目的

- MUFGの持つ圧倒的顧客基盤とメリルリンチの持つグローバルな経営資源、高い専門性を結合
→本邦では他に比類ない本格的PBサービスを提供。未開拓市場を切り開き、高い成長性・収益性を目指す

対象顧客

- メリルリンチ日本証券の顧客に加え、MUFGの優良富裕層顧客、新規のPBニーズがある顧客および新規顧客が対象

提供する商品・サービス

- オープンアーキテクチャー方式でベストの商品を提供（顧客ニーズに応じ、必要があればカスタマイズ）

これまでの取組み（2）～資本政策



● 公的資金の一部返済など資本政策を着実に展開

自己資本の状況（2005年9月末）

（兆円）

	MTFG	UFJH	MUFG (単純合算)
Tier1*1	4.64	2.75	6.70
内、公的資金	0.00	1.40	1.40
内、利益剰余金	2.05	0.31	2.36
Tier2	3.49	2.30	*2 5.93
控除項目*1	▲ 0.92	▲ 0.08	▲ 0.30
RWA	60.14	42.59	102.73
自己資本比率 (%)	12.01	11.67	12.00
Tier1比率 (%)	7.72	6.47	6.52

（ご参考） 除く公的資金Tier1の状況

Tier1	4.64	1.35	5.30
Tier1比率 (%)	7.72	3.19	5.16

*1 Tier1と控除項目からはMTFGからUFJ銀行に対する7,000億円の優先株出資を除く

*2 UFJHのTier2不算入額(1,378億円)を調整

資本政策を着実に展開

2005年2月 MTFG優先株式2,500億円発行

2005年8月 MTFG優先出資証券1,650億円発行

2005年9月 UFJH公的資金劣後債1,000億円返済

2005年10月 公的資金一部返済（3,236億円）

⋮

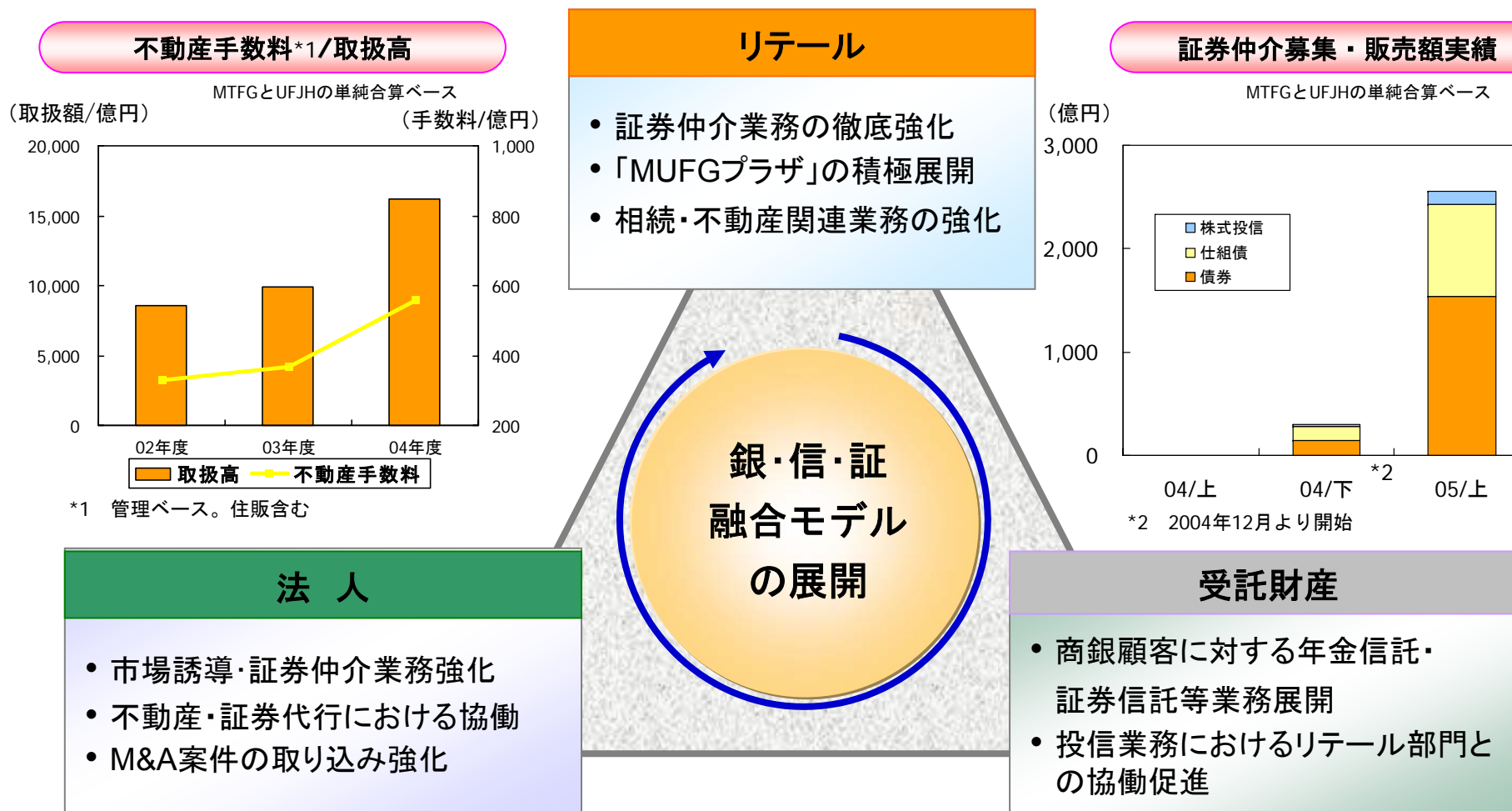
公的資金の早期返済に向け
引続き機動的な資本政策実施を検討

日本経済の回復基調継続・規制緩和の更なる進展

- 好環境を活かしたトップライン・グロース実現
 - ✓ 事業戦略の基本方針は不変
 - ✓ 銀・信・証融合モデルを本邦最大級の顧客基盤に展開
- 統合計画の遂行
 - ✓ 商業銀行の円滑な統合実現（2006年1月1日予定）
- 機動的な資本政策の検討

事業戦略の基本方針（1）

- 連結事業本部制度をベースに銀・信・証の融合モデルを本邦最大級の顧客基盤に展開





MUFG

事業戦略の基本方針（2）

- リテール、ミドルを中心に対顧客3事業を一層強化
- 新規事業展開と既存ビジネスモデルの高度化を促進

円の大きさは08年度に向けた収益拡大期待の大きさを表す（イメージ）



コアビジネスの更なる強化～リテール



●2005年度下期の取組み方針

リテール	運用商品販売	<ul style="list-style-type: none">•運用商品＋証券仲介の販売額で前年同期比4割増の2兆円強を目指す•戦略的アライアンスも活用し、競争力ある新商品を連続投入•規制緩和対応に加え、SPR（セールス・プロセス・エンジニアリング）を活用し販売力を強化
	ローン	<ul style="list-style-type: none">•実行額で前年同期比2割増の2兆円強を目指す•新商品の連続投入•業者ルート・企業提携の強化
	コンシューマーファイナンス	<ul style="list-style-type: none">•総合カード拡販（商品ラインナップ拡充等）•UFJニコス・DCカードを軸としたクレジットカードビジネス強化•農林中金との戦略的業務提携具体化
	相続・不動産	<ul style="list-style-type: none">•連結シナジーを追求、BTM・UFJ銀行顧客からの遺言信託、不動産収益の大幅拡大を目指す
	チャンネル戦略	<ul style="list-style-type: none">•新チャンネル戦略開始（MUFGプラザ100カ店超体制構築、PBO（プライベートバンキングオフィス）拡大、店舗リニューアル等）•店舗統合開始

コアビジネスの更なる強化～法人

●2005年度下期の取組み方針

法人	中小企業ビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・代理店規制緩和を睨んだ生損保・地銀等とのアライアンス強化 ・軽量化拠点をはじめとする顧客接点の飛躍的拡充 ・戦略商品「BIZWAY」の拡販等
	投資銀行業務	<ul style="list-style-type: none"> ・融資シェア調整への対応策としてシ・ロン/私募債を積極販売 ・MUFGの顧客基盤と三菱UFJ証券の機能を活用したM&A業務拡大
	決済業務	<ul style="list-style-type: none"> ・徹底したセグメント別推進戦略と商流捕捉による主力化推進 ・決済・IT商品ラインナップの強化・拡充
	不動産業務	<ul style="list-style-type: none"> ・銀・信・証の機能を有機的に結合 ・証券化マーケットへの提案力強化と業務領域拡大を企図した戦力投入
	証券業務	<ul style="list-style-type: none"> ・市場誘導、証券仲介業務強化
	アジアビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ・内外連携強化により、新規捕捉と既存先の掘り起しを徹底

コアビジネスの更なる強化～受託財産



●2005年度下期の取組み方針

受託財産	年金業務	<ul style="list-style-type: none">・アクティブ系運用商品の拡販・旧両信託のプロダクトを互いの顧客基盤にクロスセル
	投信運用・管理	<ul style="list-style-type: none">・三菱UFJ投信のプレゼンスを一層強化・投信会議等におけるリテール部門との連携強化・日本マスタートラスト信託の資産管理サービス機能をフル活用
	カストディ	<ul style="list-style-type: none">・日本市場に軸足を置き、ニューヨーク・ロンドン・ルクセンブルグの「3極レンディング体制」強化による収益拡大
	年金以外の信託業務等	<ul style="list-style-type: none">・金融法人、事業法人、非営利法人等における私募投信の拡販推進・投信会社との連携強化とニーズに合った商品組成を指向したマーケティング

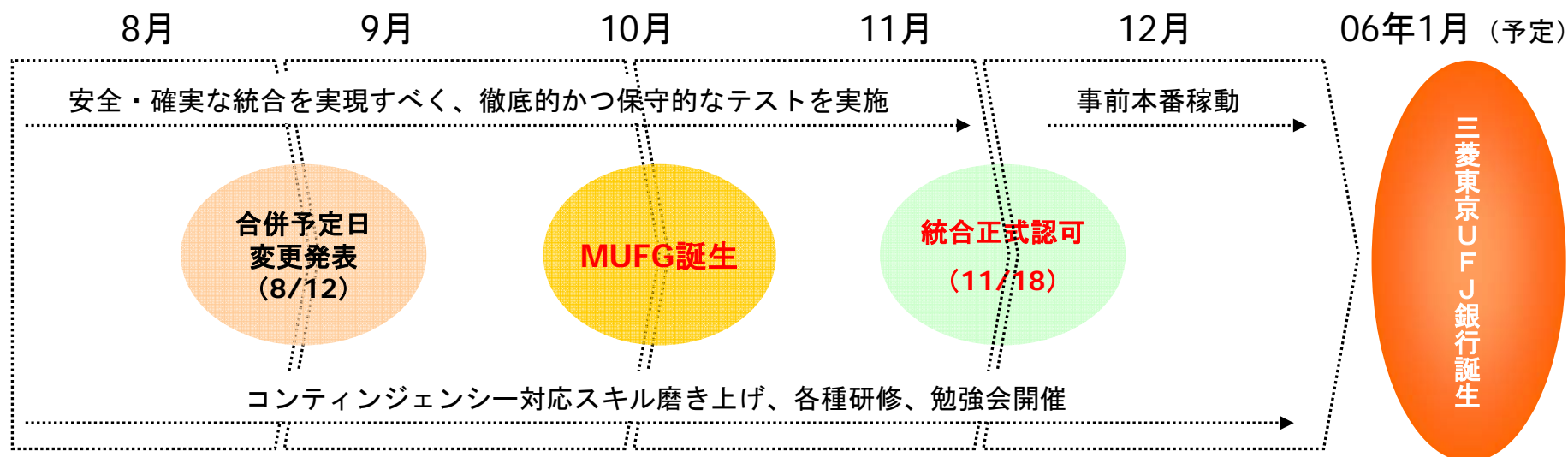
統合計画の遂行



商業銀行の円滑な統合実現に向けた取組み

- 安全・確実な統合に向け、一段上の目線で準備を徹底
～ 数度にわたる全店での本番環境リハーサル、不測の事態への対応訓練を実施
- 1月1日の合併に向け事前本番稼働等引続き万全の準備を実施

商業銀行統合スケジュール



サービス No.1

信頼度 No.1

国際性 No.1